

明治魂を伝える

志田 武

日本生命保険相互株式会社

平成十五年政治経済学部政治学科卒

高校三年間、全く勉強をしてこなかった私でしたが、高校三年の冬に突如芽生えた『天学生になって4年間遊びたい』という不純な動機から、親に頭を下げて浪人し、必死に勉強して入ったのが明治大学でした。



直立不動のまま、短くて三十分、長いと一時間。反省会が終わると、いよいよ飲み会です。店(宮古)に行くこともありましたが、週に一回は、明大前の駅前広場で車座になり宴会をしていました。路上飲み会です。宴会の中心は山手線ゲームでした。このゲームは、『日本の妖怪の名前』といった『お題』に対して、一人ひとり順番に、

しかしながら、体同連硬式庭球部は、私のイメージしていたテニスサークルとは大きく異なり、とても明治らしい伝統のある同好会でした。

まず、練習中のボール拾いは常に全力ダッシュでした。疲れていても、短い距離でも、全力。しかも、先輩がボールを拾うと、『おい一年！』がボールを持っているぞ！』と怒鳴られ、全力ダッシュ

で取りにいかなければいけない、という決まり事がありました。

結局、練習中は全て一年生がボールを(全力ダッシュで)拾って回らないといけないので、練習が終わるとクタクタになりました。そして、ようやく練習が終わると反省会が始まります。

コートの外で、三年生と一・二年生で向かい合って整列し、練習内容(主にボール拾い)について、ご指導を頂きます。

小豆洗い！(パンパンと全員で拍手2回) 鬼太郎！(パンパン)、ぬらりひょん！(パンパン)とリズムよく回答していきます。

そして、自分の順番の時に、リズムに合わせて正しい回答ができないと負けと

なり、用意されたお酒を飲むというものでした。

毎回、先輩が買ってくる、特大サイズの大五郎と鬼ころし(リーズナブルな焼酎と日本酒)を、しこたま飲みました。ただ、おんでもないとこに入ってしまった！』と後悔していたのは最初だけで、良くも悪くも環境に順応していった

私は、最終的には三年生で副将になり、そうした古き良き(?) 伝統を、後輩に伝えていく立場になりました。

ちなみに、後輩達の名譽のためにお伝えしますと、現在の体同連硬式庭球部は、よい伝統のみを受け継いだ素晴らしい同好会だと聞いております。

そんな濃密な時間を過ごしたので、私にとっては、明治大学は体同連硬式庭球部です。

『目の前のことに全力で取り組む！』

(それが例えボール拾いでも、飲み会でも)『このことは、大学四年間で心と身に沁みこんだことであり、私にとっての明治魂』です。

平成十五年に大学を卒業し、日本生命保険相互会社に入社しました。

OB訪問でお会いした明治大学の先輩が、若いのに裁量を持って仕事をしていることを知り、『この会社に入りたい！』と感じたのがきっかけでした。

今年で入社十六年目となりましたが、営業支援↓システム開発↓人事↓営業部長↓人材育成と、数年毎に新しい環境で仕事をさせてもらっています。

仕事が変わったり、生活環境が変わったりと、この先も人生色々あると思いますが、『目の前のことに全力で取り組む』という私なりの明治魂を胸に、これからも前に進んでいこうと思います。

これからの行事のご案内

◆恒例暑気払い

八月三日(土) 午後6時

第一イン池袋

会費 五千円

◆支部総会・懇親会

十一月九日(土) 午後六時

THE・Biz(としま産業振興プラザ)

会費 五千円



明治大学校友会豊島区地域支部会報

豊島支部 NEWS

2019年 第61号

二〇一九年初春交流会を開催

校友の皆さまには、いかがお過ごしでしょうか。5月1日に新天皇のご即位、新たな年号『令和』がスタートしました。

明治大学校友会豊島区地域支部の二〇一九年度は、1月10日の役員会から活動開始し、2月9日(土)午後6時から、「地球飯店」宴会場を会場に豊島区地域支部の三大行事の一つである『初春交流会』を開催しました。

今回の初春交流会には、総勢72名の参加があり、北区、板橋区、練馬区、新宿区、中野区、港区、江東区などの近隣地域支部の支部長・幹



事長の皆さまなどもご参加いただきました。ご参加いただいた皆さまに、改めて御礼申し上げます。

初春交流会は、長尾睦子副支部長の司会のもと、一般社団法人江戸消防記念会第四区十番組・八番組の四名の皆さんによる初春らしい木遣りから開宴しました。

白砂正人豊島区地域支部長の新年のあいさつとともに、今年度も校友の皆さまからのご支援・ご協力に基づく地域支部運営への抱負とお願いがありました。



が予定されているため、小澤弘一校友(豊島区国際文化プロジェクト推進担当部長/昭和58年法学部卒)から東アジア文化都市の開催概要の説明をいただきました。

また、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、林務校友(元日本オリンピック委員会副会長/昭和34年商学部卒)から、期待と抱負や日本選手団のメダル獲得予測などの楽しいお話をいただきました。

昭和33年経営学部卒・体育会相撲部OBの勝浦信男校友の乾杯のご発声により、楽しい会食・歓談がスタートしました。

今年は、豊島区が東アジア文化都市として、さまざまな事業

盛会の中で、橋爪孝利常任幹事のリードによる校歌斉唱、幹事長の閉会あいさつ、兼村仁副幹事長と一般社団法人江戸消防記念会第四区十番組・八番組の皆さんの掛け声による三本締めで閉会しました。

今年も校友の皆さまのご指導・ご支援に基づき、より一層楽しい交流の場の継続と、地域貢献する団体として活動できますようお願い申し上げます。

文責：豊島区地域支部幹事長

猪瀬典夫

ミレイ会通信

豊島区地域支部では、毎年3回のイベントを開催し、校友の親睦を図っています。それは、2月の新春の会（地球飯店）、8月の暑気払い（第一イン池袋）、11月の総会（としま産業振興プラザ）で、校友が集い、盛大に催されます。

年配の校友からは、懐かしい昔の仲間に会い、話をしたいので、懇親会開催の強い要望がありました。このため、概ね60歳以上のシニアを対象にミレイ会を発足し、主として、イベントの無い月の第2火曜日に懇親会を開催し、2年目に入りました。

第10回のミレイ会は、5月14日午後6時に巣鴨の「たけやま」（校友池田耀さん経営）に12名が集まり、貸し切りで2時間余り、先輩方の昭和の懐かしい話で盛り上がりしました。

島村高彦さん、佐藤信征さんが初めて参加し、楽しんで頂きました。（写真・下）最後に島村さんの音頭で、校歌を高らかに歌いました。ざっくばらんな雰囲気の際は、懇親会ですので、気楽にお出



で下さい。

※担当幹事 後藤孝男

◆明大校友会豊島支部 復興支援チャリティーバザー出店参加



5月12日 日曜 池袋第二公園に於いて開催の「第一三三回・えんがわ市」に、校友会豊島区地域支部の役員を中心としたメンバーが早朝より集まり、恒例となつた復興支援チャリティーバザーに参加した。今回も校友が持ち寄った各種商品をバザーで販売しその売上高約7千円を復興支援への寄付金とする活動を行った。

開催当日は、初夏の様

な日差しの中で池袋第二公園に集まった来場客に、白砂支部長を始め、三浦北部支部長、猪瀬幹事長、板橋副支部長、長尾副支部長、藤田常任幹事らが販売のお声掛けをしてバザー会場を盛り上げた。

白砂支部長は「我が校友会



新たな仲間づくりへの取り組み

女性・若者の参加増強を目指した検討会のキックオフを3月24日（日）に池袋のオステリアサンテで開催した。



白砂支部長の挨拶から始まり、猪瀬幹事長、長橋さん（校友父母）も交えて意見交換をした。先ずは幅広く人員集めから。今後、他支部の活動も参考にしながら具体的な取り組み内容について検討して行きます。皆様からのご提案もお待ちしております。

文責…長尾睦子副支部長

企業紹介

日本政策金融公庫

池袋支店長 伊藤 由満
(昭和六十三年法学部卒)

平成三十年四月に池袋支店に参りました。早いもので一年が経過しました。今回は紙面をお借りして当社や私個人のことをお話ししたいと思います。

池袋支店では、政府系金融機関として、創業、再生、事業承継といった重要な政策分野への融資を積極的に行っています。特にターミナルに立地している土地柄、創業融資が多いのが特徴です。創業というと、一昔前は飲食店や美容室のイメージが強かったのですが、最近の業種別の動向を見ると、インターネットを活用したサービス業が増えています。店舗を必要としないので、創業にかかる資金も少なくて済みます。若い人の創業が増え、それは、資金をかせずに創



業できる環境が整備されたといった事



情もあると思います。また、創業したいと思っても、うまくいかないのではないかと不安を口にする方も多くいます。公庫総合研究所の調査では、創業した企業を追跡調査した結果、4年経過しても80%以上の企業が存続しています。ただし、飲食店や小売店は低くなっており業種によって違いがあります。特に、創業後3年程度は事業の維持に苦労すると言われています。創業しても計画通りの例は少なく、多くの企業は売上や利益が計画以下となつていきます。そのような時、余裕金があれば乗り切ることができるので、創業の際は、実際の売上は計画の半分程度と思いき、余裕をもって資金計画を立案することが大切です。今後、創業支援をはじめ民間金融機関では対応の難しい分野への融資で地域活性化に貢献したいと思えます。

日本政策金融公庫は政府系金融機関の3つの公庫が合併して誕生した会社です。私は、昭和六十二年に法学部を卒業、旧国民金融公庫に入庫しました。中学、高校も付属校だったので、計10年間、白雲なびく駿河台が校歌でした。公庫は、北海道から九州まで全国に152支店があり、三年から五年で転勤することになります。私も、西は広島、北は函館と、計6つの支店を経験しました。全国転勤というと驚かれる方が多いのですが、離任するときはどこも名残り惜しくなるのが常で、今ではいい思い出になっています。卒業後は、地方勤務だったこともあり中高時代の友人とは疎遠になっていきましたが、明治高校OB会(総明会)の幹事年の時、何十年かぶりに会うことになりました。皆さん、肩書や体格は偉くなり、性格や頭部も丸くなっており、時の流れを感じました。池袋支店に赴任したところ、副幹事長の柳田さんからの誘いもあって、校友会豊島支部の仲間に入れていただきました。校友会の皆さんとは他の会合でもお会いすることがあり、明治大学OB・OGが幅広い分野で活躍していることを目の当たりにさせていただきました。

話は変わりますが、三月、自宅近くの習志野高校が選抜甲子園に出場した

ため、土日を利用して甲子園球場に行ってきました。ちなみに、観戦するために、早朝に前売券を購入、夜行バスで移動、開門までの行列等、野球を見るだけのことに多大な労力をかけました。高校野球は人気があつて、ただふらつと行っても観戦できないのはとても辛いですが、スポーツ応援は人を元気にします。また、一体感が何とも心地いい気持ちになります。行列しても観戦したいとの気持ちにするのは、それなりの理由があるのです。学生時代も明治の野球やラグビーを観戦し、優勝時には提灯行列で神田から歌舞伎町まで練り歩いたのを覚えています。できれば甲子園で“光輝みつわれ等が母校明治の名をおいて 若き血に勇める 猛き精鋭今ここに”と紫紺の歌を歌いたいと思つていますが、個人的には、紺碧の空、若き血とともに日本三大応援歌だと思つております。他と比べて知名度が低いのはなぜなのでしょう。これから季節も良くなるので、六大学野球や高校野球の球場へ行くのが楽しみです。

今後も、明治大学校友会の方々とは懇親を図ってまいりたいと思えますので、どうぞよろしく申し上げます。